

# 清明

## 季刊はないく



- 1 花に対する「私の想い」
- 2 学校での花育にビジネスチャンスあり！
- 3 お花を楽しみませんか！
- 4 愛知名港花き地方卸売市場での主な催事結果

# 1 花に対する「私の思い」



愛知名港花き卸売事業協同組合  
事務局長 鈴木 義則

愛知名港花き卸売事業協同組合事務局長の鈴木義則と申します。まだ、私の顔をご存じない方もお見えになると思いますが、当花き市場にお世話になって、早いもので、一年が過ぎようとしております。どうか、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

また、未曾有の被害をもたらしました東北地方太平洋沖地震の被災地の皆様方には、衷心よりお悔やみの言葉を捧げたいと存じます。一刻も早い、復興を心よりお祈り申し上げます。

折角ですので、私の経歴を簡単に申し述べます。愛知県職員として、農林水産部一筋に、この間約30年本庁で勤務してまいりました。主な仕事は、主管課で総務、予算などの庶務的な仕事と、主務課では、園芸農産課・経済流通課で米の生産流通を、水産課で協会管理を、また、畜産課ではちょっと変わった名古屋競馬の指導監督の業務に従事してきました。そして、昨年3月末をもって、知多農林水産事務所を最後に退職いたしました。愛知県職員の職務経験の中で、花き市場と関係のある花きや市場を直接担当した経験はございません。

今後は、当組合において、自分の力を発揮して、頑張っていきたいと考えております。また、愛知の花き業界の発展のために、少しでもお役に立ちたいと考えている次第であります。改めまして、皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

さて、花き業界のことに関し、今、私なりの花に対する見方と申しますか、想いを二、三述べたいと存じます。

まず、花とは、何ぞやということです。

改めて調べたところ、花は魅力的な姿であるので、それを鑑賞することが古くから行われてきました。花を切り取って花束や花輪にしたりして、冠婚葬祭を始め各地の風俗や風習の中で、それぞれ独特の役割を担ってきました。日本の華道、いわゆる生け花もその一つであります。また、花を育てて楽しむことも古くから行われてきました。庭園を飾るために花を育てる例は広く見られますし、長い歴史の中で、多くの観賞用の花が栽培され、品種改良も重ねられてきました。日本では、花とは、まさに美や生命力の象徴であると考えられてきましたし、梅や桜の花を観賞する花見、四季の変化など、短い花の命がつかの間の栄華・華やかさから、美しく感じられたり、わび、さびの他、ものあはれなどといった無常観と結びついてきました。まさに、花を愛でるといふ日本人の「美的感受性」は、日本が世界に名だたる文学、芸術、数学、理論物理学を育ててきたと言われ、世界有数の経済大国となったのも、この感受性が大きく寄与していると発言されている学者（数学者・作家＝藤原正彦氏）もいます。

しかし、現代社会においてはどうでしょうか。この良き日本の文化である花文化、このことが最近失われつつあるというか、忘れられつつあるように感じられるのは、私だけではないように思います。家庭において、世の中において、殺伐とした事件や事故が、最近とみに増えてきています。日本人全体が、自分さえ良ければ他人のことはどうでもいい。まして悪い事があれば、他人事だから面白いと思っているとしたら、悲しい事だと思えます。マスコミも悪い事ばかり取り上げ日本



全体が暗くなっており、心豊かに生活する、花を愛でることができなくなっています。そんな世の中で果たして良いのでしょうか。私は、今、そんな世の中を少しでも変えるため、日本古来の文化、花文化をもう一度見直し、日本人の「美的感受性」を取り戻す必要があると思っています。再度「花を愛でる！」というムード、風潮を作り上げていく必要があるのではないかと思います。丁度、国の「花き産業振興方針」が昨年4月に策定されましたが、この方針では、①花きの効用の普及、②花きの喜びづくり、③花きの居場所づくり、の取組を進め、「花を楽しむ文化の定着を！」を目指していくとされています。

是非、この機会に花き業界の皆さんが一体となって、日本古来の花文化を復活させる取組を進めるべきであります。また、花きの業界はもちろん、各家庭やオフィスにおいて、少なくとも花一輪、花一鉢を常に飾るという習慣ができれば良いと。たとえ不景気といっても、花は切らさない。「むしろこういう時こそ、花を飾ろうよ。」というように持って行けたら、成熟した先進立国になると思います。



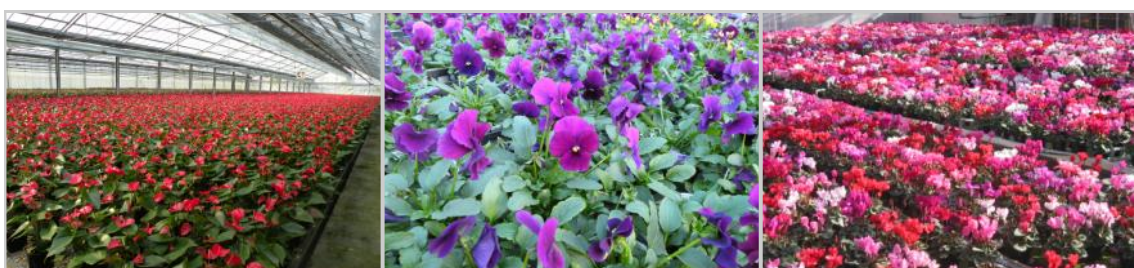
次に、花の生産についてであります。

愛知県は、皆様ご存知のとおり長年全国一の生産額を維持してきております。これは、これまで花き農家の皆様が一生懸命に汗水流して努力されてきた賜物であります。花き流通業界の方々の貢献も大きなものがあると考えております。しかし一方で、日本の高度成長と相まって生活水準も向上し、生活の中に潤いと安らぎを求めるということで、消費が年々拡大してきた要因があったことも大きなものがあります。

花がある程度の値段でたくさん売れた時代から、ここ十数年は、前に述べた要因等により、花の消費が停滞し減少しております。

生産者にとっては、燃油等の高騰など生産コストの上昇と相俟って、直近では一昨年の台風被害や昨年夏の記録的な猛暑に見舞われるなど、異常気象の影響を受け、作っても儲けが少ないたいへん厳しい経営状況となっております。また、これまでは花の生産を始めた農家が年々増加してきた訳ですが、その中心を担ってこられた、生産者の皆様方が年々高齢化してきております。近くの花き農家の方にお聞きしても、自分の代で終わりにしようと考えているということを聞きますし、野菜などの他の作物に経営転換したいという話も聞きます。

従いまして、このままでは花の生産の減少を食い止めることは容易でないと想像されます。さらに、ここ一、二年の作付面積の大幅な減少から、日本一の花き生産県としての地盤も盤石では無くなることを憂慮しております。県OBの私が言うのもなんですが、幸い、本年度、県では「花き生産振興指針」を見直す作業をしてみえます。どうか、この中で、コスト削減と品質の向上を図り、儲かる花き経営を目指して、各種施策を積極的に行っていただきたいものです。県の財政状況が厳しいのは解っていますが、この際、全国一の花き生産県にふさわしい県の関係予算の確保をしていただき、生産面のテコ入れを今一度行っていただきたいと切に願う次第であります。また、検討されています国際園芸博覧会の誘致・開催を是非実現してほしいと思います。





次に、花の流通であります。

花き流通は、花の需要拡大に伴い、取扱量が伸びてきた時代がありましたが、現在はどうか。バブルが弾けた平成3年以降も花の売れ行きはあまり落ちずに、平成10年頃までは、花は十分売れ商売も成り立ったと聞きます。しかし、今は、各家庭や会社等において、これまでの経済不況や社会不安により、花を買い控えるようになってしまい消費が全体に落ち込み、花き業界はたいへん厳しい状況になっております。お花屋さんが立ち行かなくなるということは、仲卸業者始め卸売会社にも直接跳ね返りますので、花き市場にとっても厳しい時を迎えているということになります。

そうした中で、昨年3月に、私どもの愛知名港花き地方卸売市場が、歴史的なオープンを行いました。関係者のたゆまぬご努力により、長い道のりを得て、松原地区からここ港区船見町に移転統合した訳であります。卸売会社の名称は、川上（産地）と川下（小売店・消費者）との架け橋になるとの趣旨から、（株）名港フラワーブリッジ（本年度MPS認証取得）と名付けられました。まさしく、その名の通りに、当市場の全館空調、機械セリ、自動仕分け及び共同精算等の新しい機能をいかんなく発揮して、効率的な流通に努めるとともに、花の消費拡大にも積極的に取組み、関係者の皆様に満足していただけるサービスを提供していくことが重要と考えます。その上で、地元、愛知県はもとより、中部圏、全国からの期待に沿えるような拠点市場としての地位を確立していく必要があります。なお、松原地区に残られました花き市場関係者の方も、将来を見据えて二次移転を早急に検討してほしいと願うものであります。まさに、名古屋地区の切花市場は一つ、消費者や生産者、小売店の皆様のためにも、力を一つにして取り組んでいく必要があると思います。



最後に、これからの市場は、単にモノを仕入れ販売するだけでは成り立たないと思います。

花き市場にとって、従来どおりの販売方法を続けているだけでは、苦しい状況にあるということに他なりません。今後は、生産面と流通面の問題をしっかりと受け止めて、共に問題点を解決していく覚悟、努力を行っていくことが大切であります。そして、最初に申し上げた「花を愛でる！」を合言葉に、花文化の復活に取り組んでいく必要があります。また、企業は社会、地域に貢献することが大切であります。地域活動に積極的に参加をすることや、子供たちに花の優しさ美しさを感じる気持ちを育てる「花育」活動にも取り組む必要があると思います。

以上、勝手なことばかり、私なりの想い、考えを述べました。

私どもの愛知名港花き地方卸売市場も努力を積み重ねていく所存であります。どうか、今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 2 学校での花育にビジネスチャンスあり！ ―生物育成分野必修化への対応―



岐阜県立国際園芸アカデミー  
井上 守准教授

### (1)はじめに

今では花育という言葉は業界の中では十分に知れ渡るようになりました。花きの消費が低迷する今、その重要性についてはいまさら述べる必要がないほどです。花育活動は生産者団体、市場関係者、行政、小売店関係者などで積極的に実施されいまや百花繚乱です。

しかし、最近では「百花繚乱」から「雨後の竹の子」と揶揄されることも少なくなく、花育の様々な課題や問題点も浮かび上がってきました。

東海地域花き普及・振興協議会では、こういった各団体の崇高な志で行われる花育がより効果的に推進されるために、花育推進検討委員会を組織し、様々な花育活動の実態調査や学校の先生方への意識調査等を行い、花育にまつわる様々な問題や課題をまとめ情報発信しました。

ブームも一段落したかのような花育ですが、2012年度からは劇的に推進できる可能性を秘めた千載一遇のビッグチャンスがやってくるのです。それは、平成23年度から小中学校の学習指導要領が全面的に改定され、中学校技術家庭科の分野で生物育成が必修となったことです。中学校技術家庭科の総時間数87.5時間のうちの18時間は絶対に生物育成の授業をしなくてはならないということです。全体の約20%を占める決して少なくないボリュームです。

今、中学校の現場では、具体的な植物を使ったプログラムの教材研究が急ピッチで進んでいます。全国には1万校を超える中学校が存在します。元気のない花き業界にとっては大きなチャンスと捉え、積極的な提案が求められています。本稿ではこの改訂をいかにビジネスにつなげるかについて考えてみたいと思います。





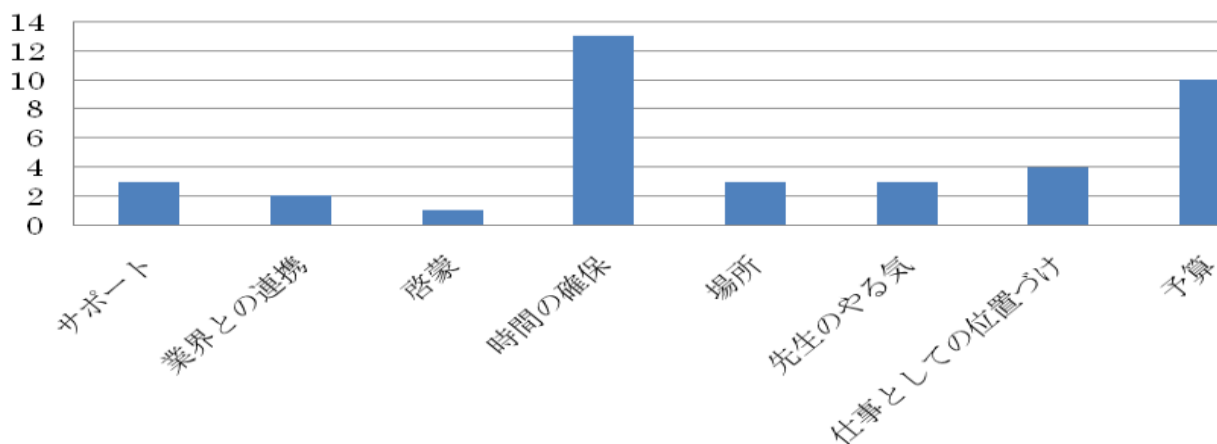
## (2) 学校での花育の魅力

学校の先生方にとって花や緑に接することは教育効果が高いことは充分わかっています。しかし、非常に忙しい学校生活の中で、しかも課外活動で花育を行うのは相当にハードルが高いことでした。2009年に花育推進検討委員会の行った調査(図1)において、時間の確保や予算等の問題、さらには学校との打合せなどで苦労している団体の方が多く見受けられました。

技術家庭科の生物育成が必修になった事で、これらの様々なハードルが一気に低くなりました。花に接する時間を技術家庭科の授業中に確保することができたのです。

図1：2009年 花育推進検討委員会調査

Q:学校の中で花育を推進するために何が必要か？



学校はなんといっても花や緑と接する(花育を実践する)絶好の場なのです。学校での花育の魅力について挙げてみました。

### ①機会と場の確保

民間で行う花育とは違い、学校では児童生徒を集める必要がなく、花を飾る教室、花壇等の施設があります。

### ②授業の一環である

授業の一部であることは児童、生徒の取り組む真剣度が違います。教材となれば費用面の問題もなくなります。

### ③指導者がいる

民間の花育の最大の欠点は花育後のフォロー(事後指導)ができないことです。学校で花育後も先生が普段の生活の中で適切なフォローができます。

### ④仲間がいる

子ども達にとって、仲間で作業することは楽しみを増大させます。友達と比べあい、競い合うことで学習効果も高くなります。

## (3) 販売促進の視点から

学校での花育をさらに業界の立場から営業的に見るとさらに可能性が広がります。学校には当たり前ですが先生がいます。2008.12.14付けの日経MJの記事では販促のきっかけとして学校の先生を有効活用することの大切さを紹介しています。内容をまとめてみました。



図2 2008.12.1日経MJ

- ①試供品などを試してもらう場として  
学校は絶好の場
- ②先生に商品説明することが、口コミ  
情報として子供→親に伝わる
- ③家庭の中心は子ども。子どもが興味を  
持つことは親も興味を持つ  
神聖な教育の場で商売をするとは・・・  
というご指摘があります。  
商売が全面にでると逆に引かれてしまう  
おそれがあります。  
学校での花育を支えるという気持ちが  
大前提であれば、積極的な提案は問題  
ないと思います。



#### (4) 生物育成での教材に求められるもの

それでは、我々の取扱う花材が授業として採用してもらうにはどのような事に気をつければ良いのでしょうか。従来の花育のように、花材を無償提供、指導者をボランティアで派遣すればいいという単純な問題ではありません。技術家庭科として学ばせたいことがいくつかあるので、それらを半年くらいの期間に植物を通して学んでいくことができる花材でありテーマである必要があるのです。また、授業であるので個々の生徒を正しく評価できる花材でありテーマである必要もあります。

また、生ものが故の難しさがあります。工作のように小分けされた材料をキットにして購入すればいいというわけではありません。植物は天候に左右され、さらに授業の開始時期は学校行事等で学校ごとに微妙になることから、教材を販売するには柔軟な供給体制が必要です。

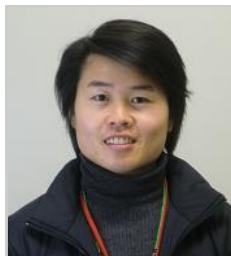
図3 学校での花育の風景



#### (5) このチャンスを逃すな！

現在、私は岐阜県の中学校技術家庭科部会の方々と生物育成の授業に使えるような花材やテーマの開発を行っています。この作業を通して感じることは、いろいろな植物が教材に成り得るし、様々な魅力的提案が可能だということです。生産者や小売店の立場からどんどん提案があると業界が盛り上がります。従来の教材会社にとっては植物を扱うことはとても高いリスクになっており、今のところ参入障壁になっています。今こそ、植物を扱う我々が学ばせ方もセットで提案し、教材として販売するチャンスがあるのです。

### 3 お花を楽しみませんか！



株式会社 インデックス  
名港店店長 方 送基

当社は、今年で創業18年目に当たり小売店やスーパーなどへの卸売り営業を中心として、ずっと花き業界に携わってきました。2010年4月には、愛知名港花き地方卸売市場2階にお花屋さんのニーズに答えるべく「株式会社 インデックス名港店」をオープンしました。花関係の資材や、輸入品（榭・チラ・カーネーション・しめ縄など）を取り扱うマルチな卸問屋です。お花屋さんのニーズに誠心誠意応えられる花材卸問屋を目指しています。



当社の特長は、ラッピングペーパーなど包装資材の豊富な品揃えです。お客様のニーズに合わせてお花屋さんに満足して頂ける良質な商材を多数ご用意しております。

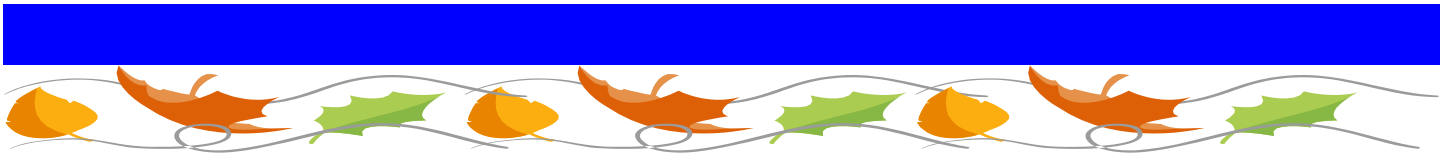
最近、魅力が広まりつつある「プリザーブドフラワー」は、多くの種類を揃えています。また、輸入榭と輸入チラ、輸入のカーネーションなども扱っています。

新しい試みとしては、外国から直接輸入し販売することを検討しています。もちろん、今後の需要バランスを考えながらの話ですが、実現できれば商品単価は安くなり、品揃えも豊富になるので実現に向けてがんばりたいと思います。

やっと開業して1年経過して、皆様から教えて頂くことが多いですが、これからも「お客様に満足」をお届け出来るように日々奮闘して行きます。







●お花を楽しみませんか！

「最近、お花や植物を飾る家庭が以前より少なくなった気がします。少なくなった理由の一つに生活環境の変化があります。野原や田んぼが減って、自然の花や緑が身近になくなってしまったことが関係していると思います。小さい頃から花や緑に囲まれた環境で生活をしていれば家の中にも自然とお花や緑を飾る筈です。しかし、家の中に花や緑がないのが当たり前の生活をして居れば何も気づきません。私は、もっと多くの方が気軽にお花を楽しみ、できることから始めて欲しいのです。最初から多くを望まず、例えば「食卓に花を飾ってみる簡単なことから始めればいいのです。そして、気づいて欲しいのです。花や緑が人間の生活に必要な不可欠な存在であることを！」

毎日皆が、顔を合わせる食卓に季節のお花を飾ってみて下さい。食卓に季節が感じられ、花の色や花の香りで誰でも心身が癒されてきます。そして、きっと大切な家族やそこを訪れるお客さんも、笑顔になれる筈です。「花より団子」とか「花より男子」という人も一度試して見て下さい。同じ部屋でも、花を飾るだけで居心地がうんと良くなり、心が豊かになった気がしてきます。

次に「花をもっと、かわいくしたい！」とか「お部屋を明るくしたい！」と思う筈です。だけど、「どうすればいいんだろう？」なんて困った時は、私達に気軽に声をかけてくださいね。

花瓶を選んだり、ラッピングしたり、ピックを選んだり・・・とお手伝いします。いろんなアイデアを皆で出し合って工夫をすればもっと楽しくなります。こんな気持ちって「ステキ」じゃないですか？

「一人でも多くの人に花と関わり、花を楽しみ、幸せになってほしい。」と私は願っています。日本の経済状態があまり良くない今こそ、花で明るい元気な世の中になってほしい。あなたも花のある暮らしで、優しい気持ち、感謝する気持ち、創造力や探究心を育んでみませんか！



## 4 愛知名港花き地方卸売市場での主な催事結果

### (1) 高齢者花生活推進事業 フラワーアレンジメント教室

開催日：平成23年1月26日（水）午後1時30分～午後3時30分  
講師：名古屋生花小売協同組合 青年部

場 所：港区社会福祉協議会3階  
参加者：30名



開催日：平成23年2月4日（金）午後1時30分～午後3時30分  
講師：名古屋生花小売協同組合 青年部

場 所：港区役所南陽支所2階  
参加者：56名



### (2) 農商工連携ビジネスフェア

開催日：平成23年2月10日（木）午後1時30分～午後5時  
参加者：544名（出展関係者165名、来場者379名）

場 所：アイリス愛知





### (3)「花き日持ち・鮮度保持」講習会

開催日：平成23年2月16日（水）午後5時～午後6時30分 場 所：愛知名港花き地方卸売市場 2階多目的ホール  
講 師：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 参加者：58名  
花き研究所 研究管理監 市村 一雄先生



### (4)花き講習会(お店で役立つ最新花き情報)

開催日：平成23年3月2日（水）午後5時30分～午後6時30分 場 所：愛知名港花き地方卸売市場2階 多目的ホール  
講 師：愛知県農業総合試験場 参加者：56名  
総括研究員 大石一史先生、主任研究員 長谷川徹先生、主任 新井聡先生、主任 服部裕美先生



### (5)高円宮妃殿下お成り

開催日：平成23年3月11日（金）午後3時40分～午後4時30分  
場 所：愛知名港花き地方卸売市場



■お問い合わせ先

愛知名港花き地方卸売市場

愛知名港花き卸売事業協同組合 事務局まで

〒455-0027 名古屋市港区船見町34番地の10

TEL:052-747-8700 FAX:052-747-8750

URL:<http://www.amk.or.jp> E-mail:[tmizuno@amk.or.jp](mailto:tmizuno@amk.or.jp)